

令和4年度東京都立府中けやきの森学園くぬぎ分教室入学式

東京都立府中けやきの森学園くぬぎ分教室

御入学おめでとうございます

4月6日、府中けやきの森学園くぬぎ分教室第7回入学式が行われました。

中学部1名(3B病棟)、高等部1名(3D病棟)の計2名の生徒が入学を迎え、式に参加しました。

入学式は感染防止対策の為、在校生の参列はありませんでしたが、保護者、院長先生、事務長、看護科長、生活療育支援科長、病棟看護師さん方が見守る中、本校校長からの中学部新入生紹介、高等部生徒入学許可、担任紹介等、無事に執り行うことができました。

新入生たちは、いつもとは違う入学式の雰囲気、少し緊張の面持ちを見せながらも、新たなステージに胸を膨らませているようでした。

いよいよ新たな学部での授業がスタートします。目標を決め、様々な経験を通し、自分たちの好きなことやものを増やしていきます。

御多忙の中、御参列くださいました保護者の皆様、病棟の皆様、センターの皆様、有難うございました。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第532号 発行日 令和4年4月30日

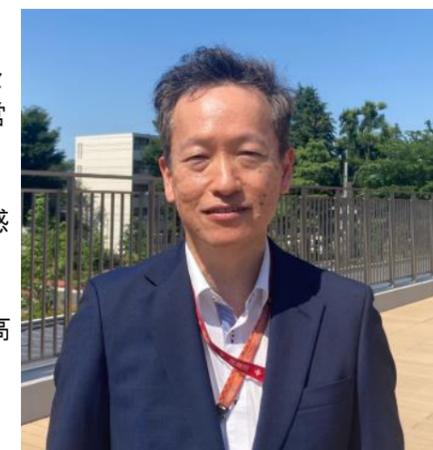
着任挨拶

○ 事務長 行本 理 (ゆきもと さとる)

4月1日付で事務長に着任しました行本です。前職は医療政策部医療政策課長で、都内の医療提供体制確保に加え、東京2020大会の医療確保、新型コロナウイルス感染症に係る入院調整本部などを担当していました。

府中療育センターは2度目の勤務となります。前回は事務次長として平成24年4月から1年余りお世話になりました。当時は新センターの計画が進みだしたところで、家族会をはじめ、職員や運営に携わる方など多くの方々から様々な意見をいただきながら計画の実現に向け準備していたのを思い出します。令和2年6月に新センターが開設され、そのセンターに戻って来られたことを嬉しく感じています。

新型コロナウイルス感染症は、未だ収束が見えず、利用者やご家族にもご不便をおかけしておりますが、利用者に寄り添い質の高い療育・医療サービスの提供を目指し、職員一丸となって取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



○ 事務次長 繁田 直文 (はんだ なおらみ)

4月1日付で事務次長に着任しました、繁田直文です。

前職では、保健政策部で、多摩・島しょ地域の都保健所の管理運営や施設整備、新型コロナウイルス感染症への即応体制の整備などに携わりました。

福祉分野、療育施設は初めてですので、皆様にご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、御指導よろしくお願い申し上げます。

事務室はセンターの庶務担当課として、利用者へ寄り添う療育・医療サービスの提供のため、庶務、用度、家政、医事の各担当が力を合わせ、各科・各部門の業務や事業が円滑に実施できるよう、また、職員が働きやすい環境となるよう、取り組んでいきたいと思っております。

令和2年6月に新センターに移転してから約2年が経過し、新しい施設にも慣れてきたところだと思いますが、新型コロナウイルス感染症の感染対策を継続しながら、様々な課題に一つ一つ対応していければと思います。

微力ながら尽力してまいりますので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



退任挨拶

○前事務長 渡辺 秀子（わたなべ ひでこ）

令和4年3月31日をもって、定年退職いたしました。東京都職員としての最後の2年間を府中療育センターの事務長として勤務させていただきましたことに感謝しております。利用者の皆様、ご家族の皆様、職員の皆様、お世話になり有り難うございました。

センターでは、10年ほど前にも事務次長として勤務しており、当時着手していたセンターの移転改築が、多くの関係者の尽力を経て実現したこの時期に再び勤務できたことを思うと感慨深いものがあります。新センターでは、まだまだ課題は多いものの、多摩療育園の事業の継承や電子カルテ関連システムの運用なども軌道に乗ってきているのではないかと感じています。

心残りなのは、新センターでの活動が新型コロナウイルス感染症の蔓延により、大きく制限され、開所式や施設見学はもちろん、ご家族や地域との日常的な交流を推進することができなかったことです。社会全体がいろいろな制約を受けていますが、もともと移動やコミュニケーションが困難な重症心身障害の利用者さんと社会との接点はより大きく制約されてしまいます。職員は様々に工夫して交流や体験の機会を創出していますが、限界があるので、コロナ禍が一刻も早く終息することを祈るばかりです。そして、「利用者さんの生活をより豊かなものに」というセンターの理念のもと、府中療育センターが益々発展することを祈念しまして退任の挨拶いたします。



センター職員の駅構内での人命救助対応が表彰されました。

看護科(2D病棟)の林麻由子さんは、令和3年2月9日、帰宅途中、西国分寺駅ホーム上で倒れている乗客を発見し、他の乗客2人と協力し、心臓マッサージ、AEDによる救命措置を行い、また救急隊到着後も点滴確保の補助等を行いました。

林麻由子の対応に対し、東京都職員表彰及び福祉保健局長賞(善行部門)の受賞が決定し、令和4年3月28日に澁谷院長から表彰伝達が行われました。



で

退任挨拶

○前事務次長 大野 あゆみ（おおの あゆみ）

東京都立府中療育センターの皆様

お久しぶりです。今年3月31日で異動しました、前事務次長の大野です。

ちょうど1年前、春桜満開の時に着任しました。福祉保健局も初めて、ましてや障害分野の経験もなかつたので、不安な気持ちで桜の並木を歩いた記憶がありません。しかし、それも杞憂に終わり、優しい皆様に囲まれて、いろいろ支援を受けながら、何とか業務をしてきたというのが実態です。

ただ、着任早々、新型コロナウイルス対応が多々あり、1年間はほぼ新型コロナウイルスに翻弄された時期でもありました。そうした中にも、入所者や来院者の方々の療育活動に真摯に取り組まれていらっしやっただ、院長先生をはじめ、スタッフの皆様の姿にただただ脱帽し、事務方としてどのようにお支え出来るのか、それを考えて行動していたように思います。回診等の際に病棟等に立ち寄ってお会いした入所者様方の笑顔も励みになりました。行政の領域にこうした温かい分野があるのだ、と実感できた1年でした。

本来であれば、あれもしたい、これもしなければ、という事案が多々あったのですが、先延ばしせざるを得ず、さあこれから、という時期に、いきなりの異動で自分自身本心に驚くと共に、皆様に申し訳ない気持ちで一杯です。

新しい職場は、多摩立川保健所です。新型コロナウイルスのまさに最前線職場です。

なかなか鳴りやまぬ電話の日々で、府中療育センターの穏やかな雰囲気と異なりいささかそのギャップに驚く日々ですが、分野は違えど、住民への福祉サービスという観点は同じですので、府中療育センターでの経験を活かしていきたいと思っております。

皆様方の健康と、府中療育センターの益々の発展を祈念し、退任のあいさつに代えさせていただきます。1年間、本当に、本当にありがとうございました。皆様のやさしさを忘れません。



外来部門で防災訓練を実施しました

3月22日(火曜日)、外来の防災訓練を実施しました。より実践に近い形での訓練を行うため、事務室職員10名が利用者役として参加しました。外来職員がストレッチャー等を使用して避難誘導を円滑に行うことができました。

外来のエリアは広いこともあり、いくつか課題も見えてきましたので、今後これらについて検討を加え、改善していきます。

